

こんにちは いつもお世話になっております

三栄です

第75号

発行元



株式会社三栄サービス



海外情勢に翻弄される古紙業界。今は辛抱の時か…

ロシアによるウクライナ侵攻は、私達の生活にも大きく影響を及ぼしています。皆様ご承知のようウクライナが主要生産国となっている小麦、ロシア産の石炭や天然ガスの流通が止まっていることで、物価高に拍車をかけています。

資源業界も大変な影響を受けております。古紙の納入先である製紙メーカーが石炭や天然ガスを燃料として使用しているためにコストが上がっていること、ロシアからの新聞用紙の輸出がストップしていること、世界的に古紙の供給が不安定になったことなどです。ロシア・ウクライナ両国の工場が生産していた車の部品の一部が調達でき

ずに納車が遅れているという影響も出ています。

二一世紀になり、多くの民間人が犠牲になるような戦争を許すわけにはいきません。一刻も早く戦争が終結し、平和が訪れるのを祈るばかりです。

さて、**古紙問屋においては、古紙の発生減による取扱数量の減少、加工コストの増大、国内外の価格差などの課題**があります。取扱量の減少は即ち売上の減少につながる一方、運送費や電気代、番線代は軒並み増加しています。また、古紙輸出価格が一時的に高騰しましたが、海外メーカーによるダンピングの影響で段ボール輸出価格は7月から値を下げ、不足していた新聞古紙も欧米から手当出来つつあり、今後は落ち着いていくよう

です。ただ、コスト高に喘ぐ国内メーカー価格とはまだギャップがあります。**回収業者の厳しい現状も変わりません。**車両は値段が高騰している上、新車が入らない、燃料費は二年前に比べて四〇円近く上がっている上、人件費も上がっている上、コロナの落ち着きと共に求人を出してもなかなか人が手当て出来ません。コロナで集団回収をやめてしまったり、中断している団体もまだあります。事業系の段ボールやオフイス古紙の回収も未だ発生が悪く、古紙の発生も全体的に良くないので、単価が少し戻っても回収量が減り、売上が伸びないのも悩みの種です。

古紙価格の回復を受け、一時息をひそめていた持ち去り業者も戻ってきました。

弊社には、**経営努力をしながら持続可能な地域の資源リサイクル事業者として頑張ってください。**

新入社員の紹介

山本 駿一郎

会社のすぐ裏に住んでいて、幼稚園生の頃から知っている山本君が好青年になって弊社に入社してくれました。本業で個人経営のジムをやりながら、週三日くらいですが、回収と構内作業を担当しています。夢を抱いて頑張っていますので、応援宜しくお願い致します。



三年ぶりの日資連全国大会開催。来年は東京で！

去る六月二十五日、弊社が加盟する日本再生资源事業協同組合連合会の全国大会が三年ぶりに岡山県倉敷市で開催されました。北海道から沖縄まで一四〇名ほどのご来賓及び会員が参加し、盛大な会合となりました。なお、今年から、紺野社長が理事に指名され、式典の場で紹介されました。

来年はこの大会が東京で開催されることが決定し、東京都資源回収事業協同組合が主管することになりました。七月の理事会にて全国大会実行委員会が発足し、紺野社長が実行委員会委員長として企画から運営まで行っていくことになりました。少し忙しくなりそうですが、業界全体が盛り上がるので、静脈産業から日本の再生を目指していくような、そんな活気のあふれる大会にしていきたいと考えています。